第２回

石岡市文化財調査報告会

平成28年

8月27日(土)

午前10時～

常陸風土記の丘研修室

※ 先着50名

当日入園無料

①

②

発掘調査速報展

石岡を掘る２

―戦国時代特集―

① 取手山館跡（小美玉市）
写真提供　小美玉市教育委員会

② 東田中遺跡 整地遺構
写真提供　茨城県教育財団

③ 野田館跡　④ 弥陀ノ台遺跡 堀跡

開催期間

平成28年 **8月18日(木)**
～**9月25日(日)**

休館日：８月22日、29日
９月5日、12日、20日

場　所：常陸風土記の丘展示室

③

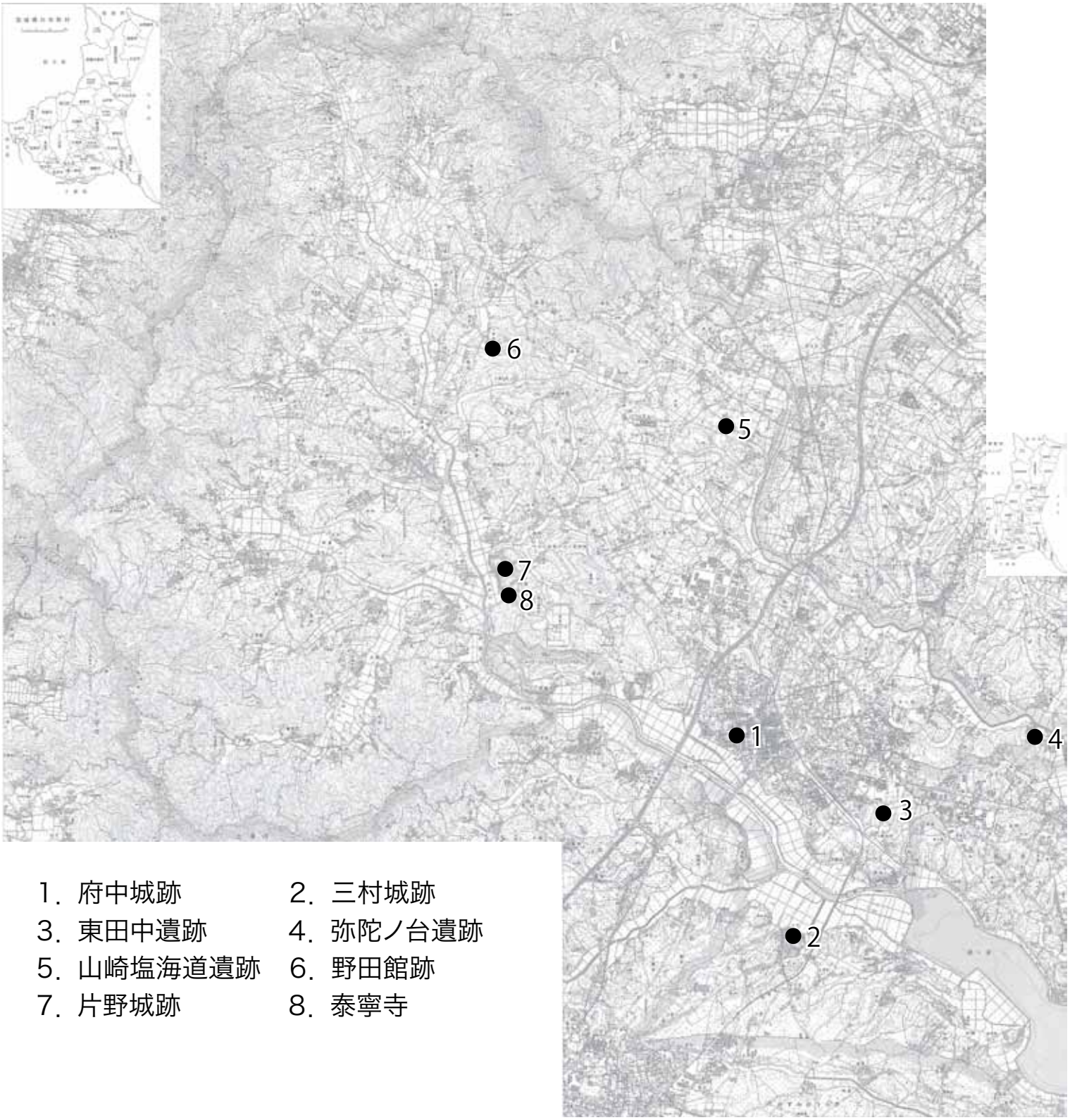
④

開園時間　午前９時～午後５時

入 園 料　大人（16才以上）310円
小人（6才以上16才未満）150円

石岡市教育委員会 文化振興課
TEL 0299-43-1111

常陸風土記の丘
〒315-0007　石岡市染谷 1646
TEL 0299-23-3888



1．府中城跡　　2．三村城跡
3．東田中遺跡　　4．弥陀ノ台遺跡
5．山崎塩海道遺跡　　6．野田館跡
7．片野城跡　　8．泰寧寺

●例言●

本冊子は、2016（平成28）年8月18日～9月25日を会期として、常陸風土記の丘展示室において開催する「石岡を掘る2」に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課（谷仲俊雄・茂木雅子・小貫智晴）が行いました。

本冊子で使用した地図は、国土地理院数値地図25000から部分転載いたしました。

●ご協力・ご助言をいただいた方々●（敬称略）

小美玉市教育委員会　　公益財団法人茨城県教育財団　　宗教法人曹洞宗泰寧寺
つくば市教育委員会　　特定非営利活動法人古仏修復工房

府中城跡（ふちゅうじょうあと）

―常陸大掾（だいじょう）氏の本拠地―

鎌倉時代から戦国時代末期まで石岡地区を支配してきた大掾（だいじょう）氏の本拠地です。奈良・平安時代には，「常陸国府」が置かれた地にあたります。

戦国時代，大掾氏は，小田城（つくば市）の小田氏，水戸城の江戸氏，小河城（小美玉市）の園部氏などと攻防を繰り広げていました。そのため大掾氏は，三村城や取手山館（小美玉市）などの出城を築くとともに，府中城の守りを固めました。平成11年の石岡小学校の駐車場部分の発掘調査では，写真のような幅10m以上の大規模な堀跡が発見されています。さらに，その内側には土塁が築かれていました。

▲府中城の堀跡

しかし，その府中城も，1590年，豊臣秀吉を後ろ盾とする佐竹氏によって攻略され落城。中世常陸の名家・大掾氏は滅亡してしまいました。

三村城跡（みむらじょうあと）

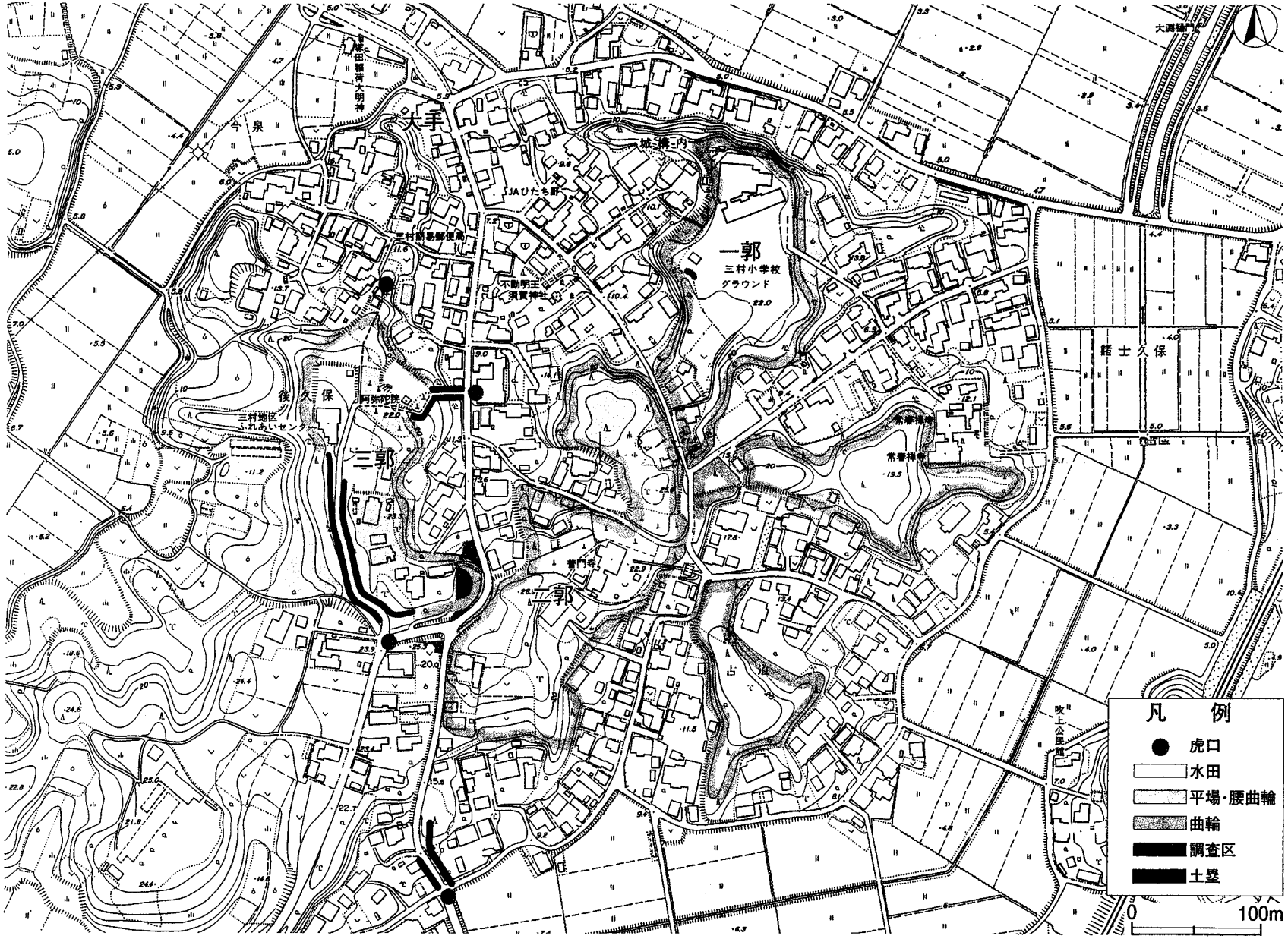
―埋められた堀　兵どもが夢の跡―

現在の三村小学校を中心とする一帯に存在した戦国時代の城館です。小田城（つくば市）の小田氏の進軍に備え，府中城の大掾氏によって築造されました。

しかし，1574年（天正2），小田氏の攻撃を受け落城。城主の大掾常春は25歳の若さで自害したと伝えられています。南の軍事的拠点を失い，大掾氏は壊滅的な打撃を受けてしまいました。

平成18年の県道拡幅に伴う発掘調査では，幅5m余り，深さ3m前後の堀跡が発見されました。堀は，埋め戻されており，16世紀代の五輪塔や宝篋印塔など石塔が出土しています。廃城に伴い，土塁や堀は破壊され，石塔は堀に投棄されてしまったのでしょう。

▲堀跡（上）と石塔の出土の様子



（『三村城跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 299 集，2008 年より転載）

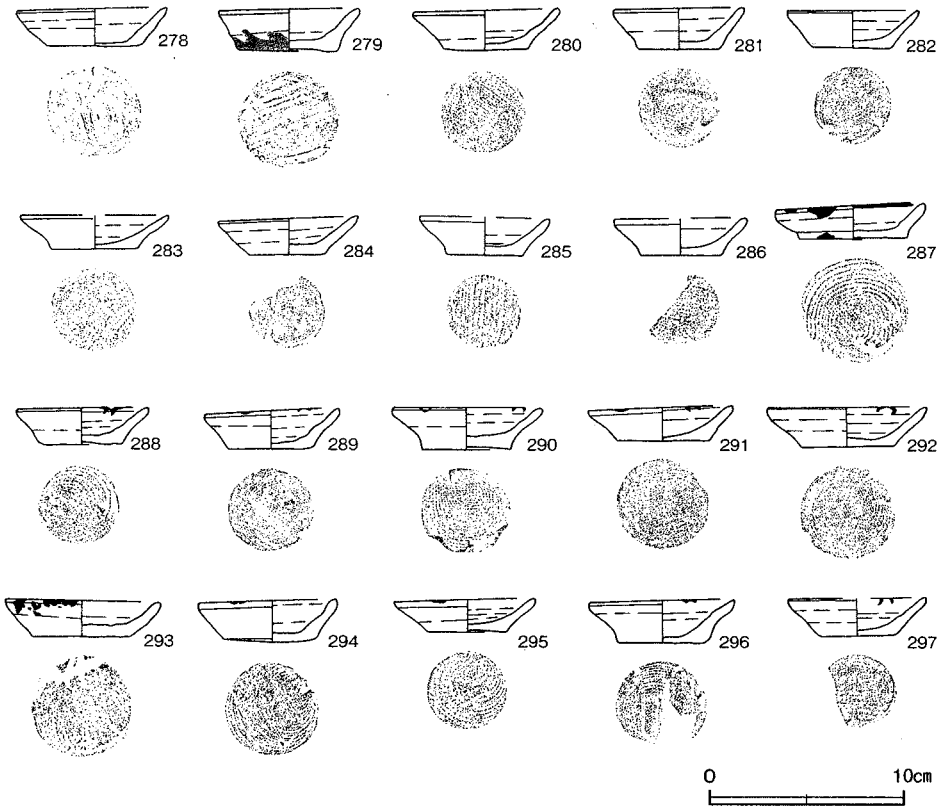
東田中遺跡（ひがしたなかいせき） ―石塔埋納遺構を発見―

国道6号バイパス建設に伴い，平成23・25年度に発掘調査を行いました。戦国時代の土坑からは，石塔が埋納された跡が発見されました。ともに出土した土器から，16世紀後半から17世紀前半に埋納されたと考えられます。

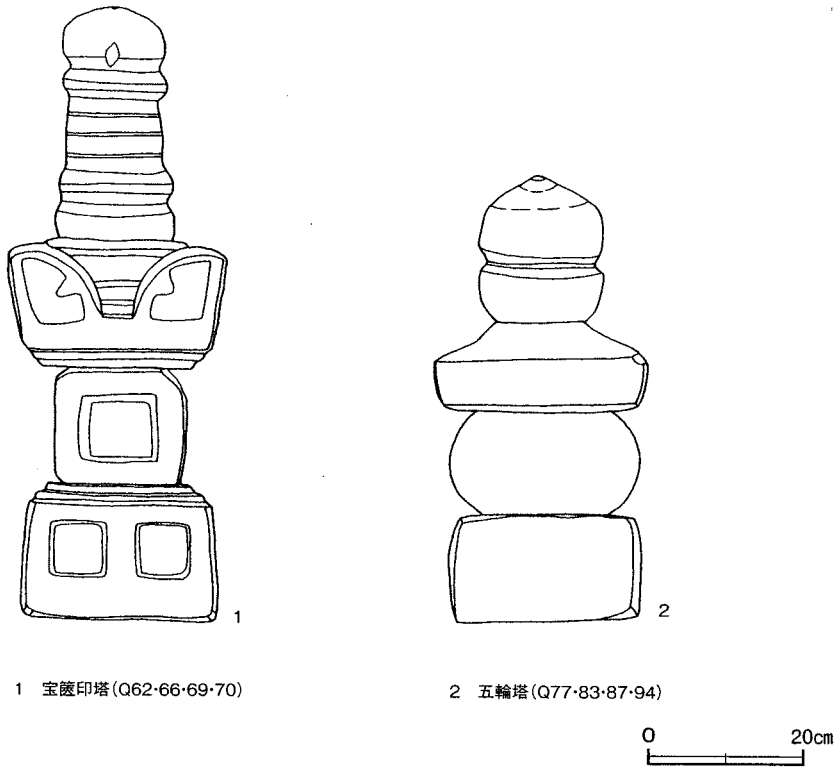
遺跡の南西には，高野浜城跡（こうのはまじょう）が位置します。戦国時代の石岡は，府中城の大掾（だいじょう）氏が治めており，高野浜城跡も大掾氏の出城と考えられています。当時，南には小田氏，北には江戸・園部氏がおり，攻防を繰り広げていましたが，次第に大掾氏は勢力を弱め，1574年には三村城が，1588年には取手山館が落城します。1590年には，佐竹氏によって府中城も攻略され，大掾氏は滅亡。石岡は佐竹氏の支配下になります。

▲石塔埋納遺構の調査の様子

石塔が埋納されたのは，まさにこの時代。佐竹氏の支配下になったとき，東田中の人々は，地区にあった石塔を集め，先祖を供養したのかもしれません。



▲第１号整地遺構出土土器



▲第１号整地遺構出土石塔の想定される組み合わせ

（『東田中遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 407 周より転載）

弥陀ノ台遺跡（みだのだい）　―戦国時代の前線基地―

小井戸地区に存在する遺跡で，平成25年11月から平成26年5月に発掘調査を行いました。事前の試調査からは，古墳時代から古代集落跡と想定していましたが，予想外のもの―戦国時代の堀跡も発見することができました。小井戸地区には「要害」や「東堀」といった地名があることから，城館の存在が想定されていました。それを裏付ける考古学的な証拠が初めて発見されたのです。

園部川をはさんだすぐ対岸には，宮田館跡が存在しています。戦国時代，府中城主の大掾氏と，小河城（現在の小美玉市小川小学校）の園部氏は，園部川をはさんで対峙し，攻防を繰り広げていました。

▲新発見の堀跡

宮田館は園部氏，弥陀ノ台遺跡は大掾氏の最前線基地だったと考えられます。

やまざきしおかいどう

山崎塩海道遺跡 ―戦国時代の中継基地―

平成25年，市道建設に伴い発掘調査を行ったところ，幅2m，深さ1m程ある戦国時代の堀跡を発見しました。

堀跡からは，16世紀末から17世紀初めの土器が出土しています。つまり，堀が埋まったのは戦国時代の終わりから江戸時代の初めで，機能していたの戦国時代と考えられます。

16世紀前半，つくば市小田城を拠城とする小田氏は，小美玉市小河城まで勢力を伸ばしていました。その際の進出ルートとしては，八郷盆地から羽鳥館を経由したと考えられています。そして，16世紀後半に佐竹氏が侵攻した際にはこのルートを西進したと考えられています。

▲戦国時代の堀跡

今回の堀は，このルート上にあたります。中継基地としての役割から堀―城館が築造され，江戸時代になると役割を終えたことから，廃城となったのでしょうか。

野田館跡（のだやかたあと）

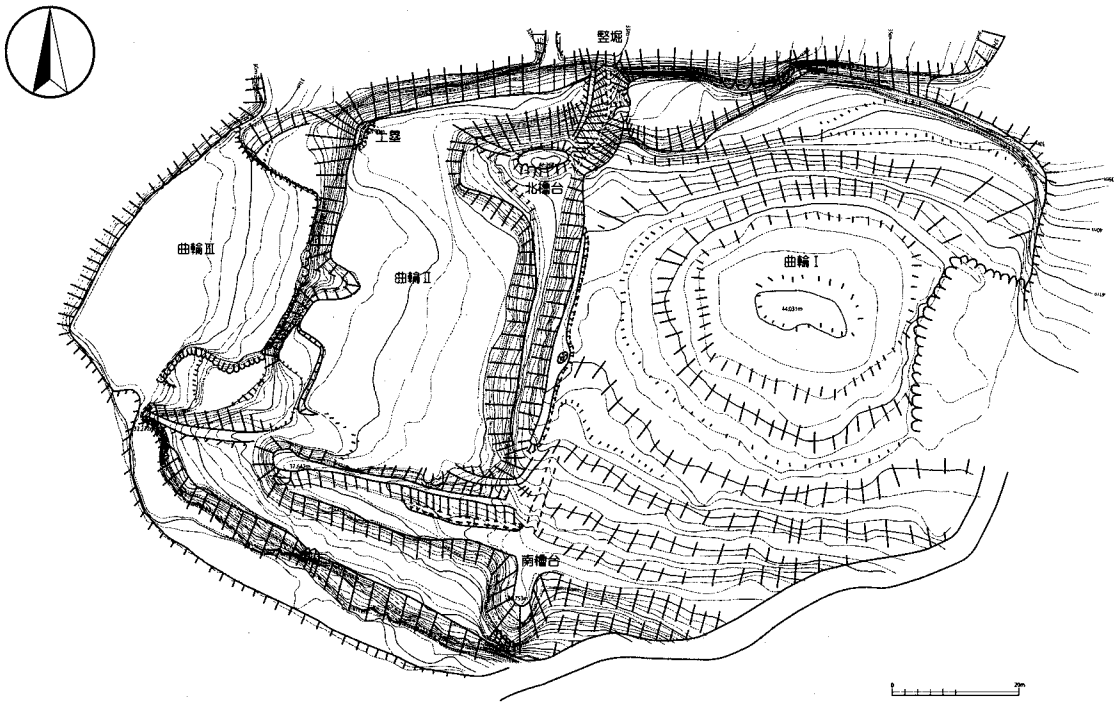
―発掘された一夜城 八郷盆地への橋頭堡（きょうとうほ）か―

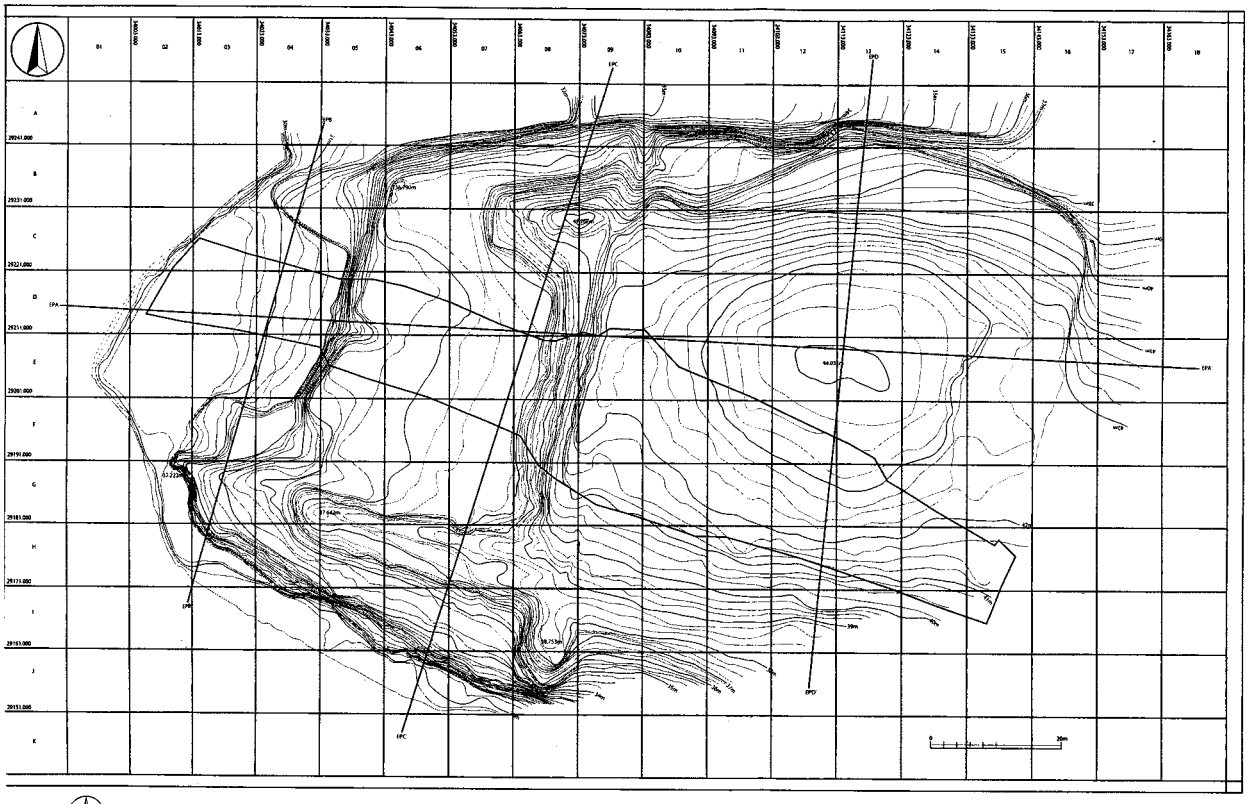
平成23年度に新発見された中世城館で，階段状に3つの曲輪（くるわ）が連なる連郭式の構造をしています。

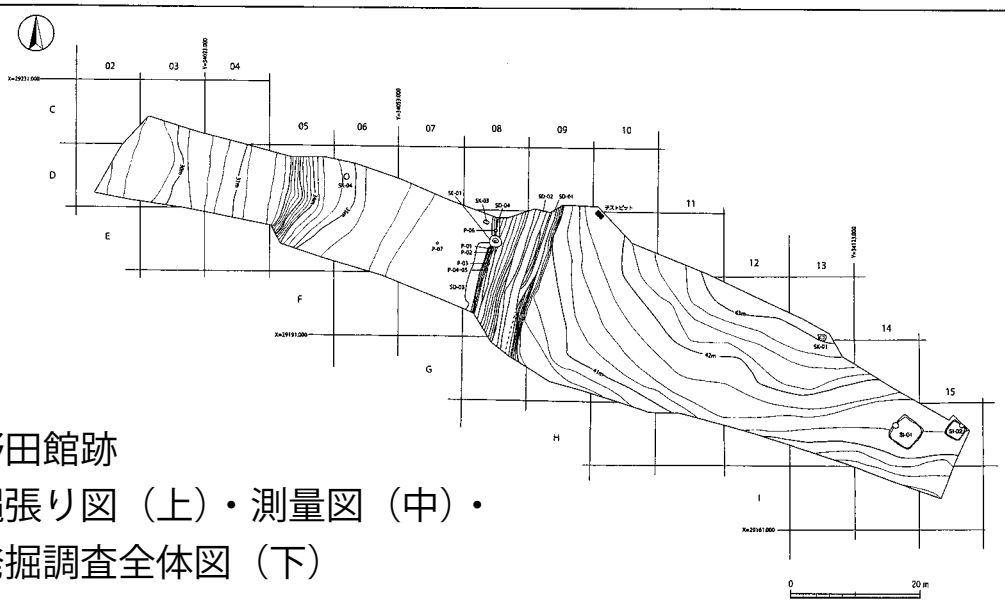
平成24年，農道建設に伴い発掘調査を行ったところ，中段の曲輪Ⅱについては堀や土塁が築かれていましたが，上段の曲輪Ⅰ，下段の曲輪Ⅲでは，その痕跡は確認できませんでした。中段を集中的に築造することで相対的に３段に見えるように急造した「一夜城」と考えられます。

16世紀後半，佐竹氏は府中城の大掾氏と一時的に手を結び，小田氏を攻めます。八郷地区は小田氏勢力圏にありましたが，野田館は，大掾氏の府中城，佐竹氏勢力下の宍戸氏の真家館へと通じる両街道の交差点近くに位置します。小田氏の勢力圏であった八郷地区に打ち込まれた楔―橋頭堡（きょうとうほ）と考えられます。

▲野田館の全景
（左奥の建物が豊後荘病院で，瓦会街道・瀬戸井街道交差点付近）



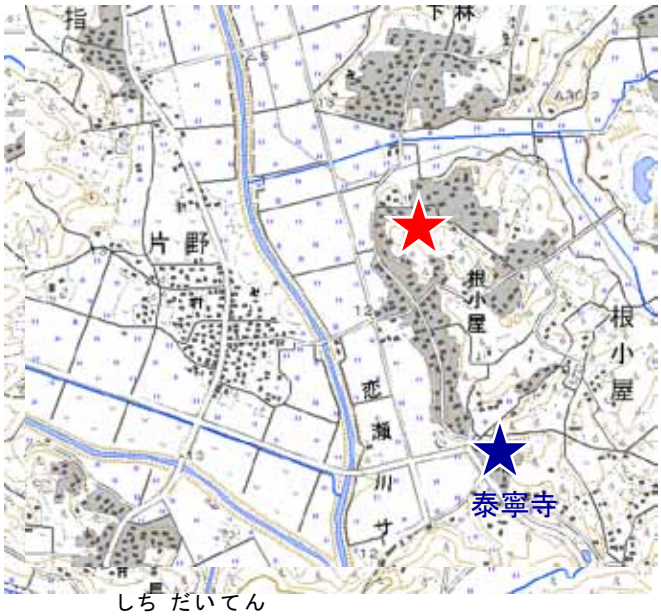




▲野田館跡
縄張り図（上）・測量図（中）・
発掘調査全体図（下）

（『野田城跡』石岡市教育委員会・関東文化財振興会 ,2013 年より転載）

片野城跡（かたのじょうあと）　―初の公的調査で得られた成果―



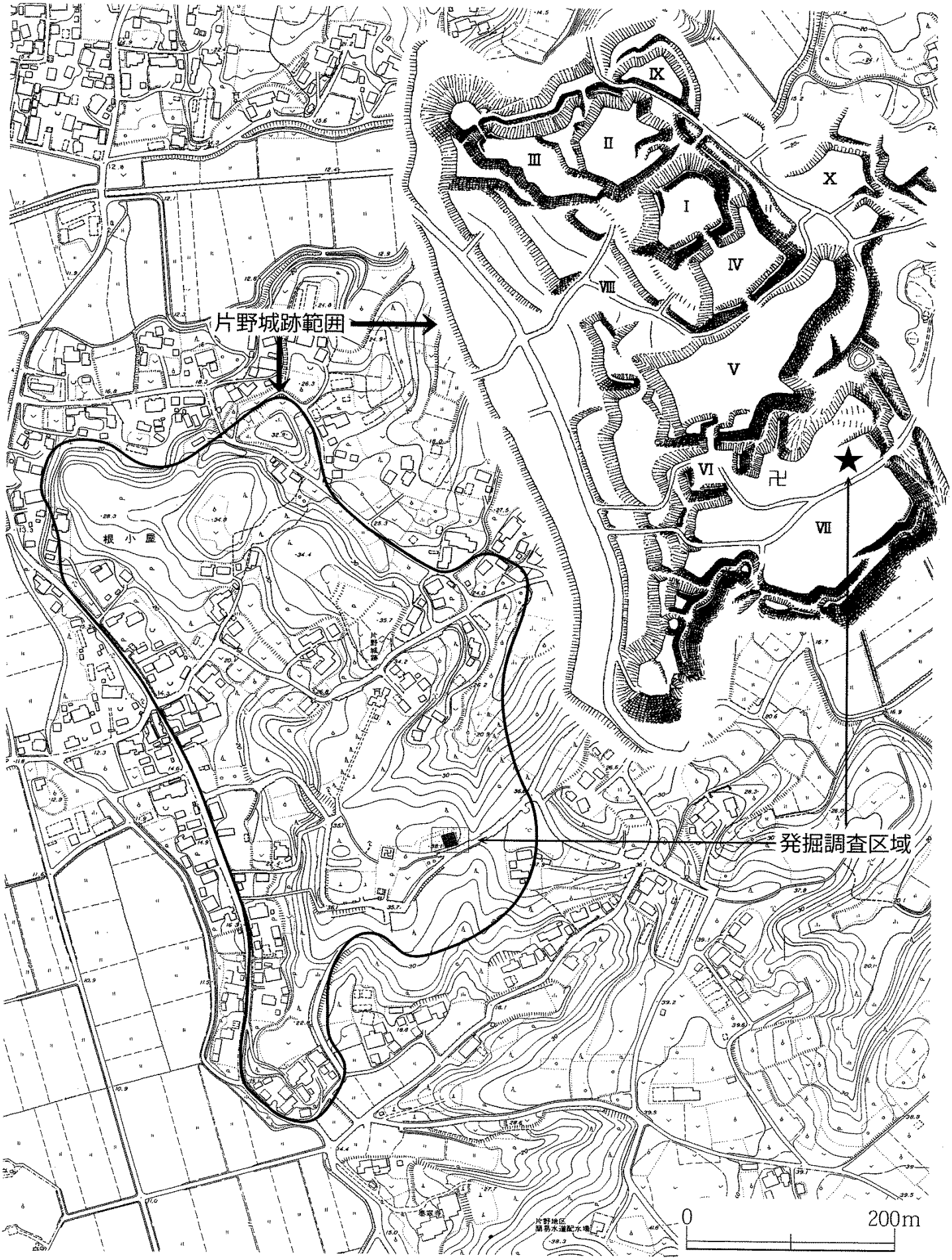
片野城跡は八郷地区根小屋にある中世山城です。文永年間（1264～1274）に築城されたと言われてお元禄10年（1695）まで使われています。主な城主としては太田資正（おおたすけまさ）や石塚義辰，滝川雄利などがおり，周辺には太田資正がもたらしたとされる七代天神社（しちだいてん）や，石塚氏がもたらしたとされる浄瑠璃光寺（じょうるりこうじ）や泰寧寺（たいねいじ）などが残っています。

平成18年度に初の公的調査を実施しました。調査範囲は浄瑠璃光寺の元境内です。柵列が3列と土坑墓21基，火葬墓3基が検出され，墓石の一部や土器，六文銭などが出土しました。

この中で六文銭に注目してみると，寛永通宝が1枚も含まれておらず，ほとんどがより古い永楽通宝でした。このことから，墓は寛永通宝が作られ始めた1635年より前の，片野城が機能していたころのものと考えられます。

さらに浄瑠璃光寺の元境内で検出されたことから，太田氏より石塚氏や滝川氏に関係の深い墓であると考えることができます。

▲永楽通宝



▲片野城位置図及び縄張り図

泰寧寺木造十一面観音坐像

根小屋の泰寧寺の本尊である十一面観音坐像は，寄木造りの仏像で，作風から院派系と呼ばれる仏師によって，14世紀中頃に製作されたと考えられます。この仏像は，以前まで聖観音菩薩として安置されていましたが，平成26年に修理を行ったところ，頭頂部に化仏と呼ばれる小さな仏像を取り付けていた痕跡が見つかり，頭頂部に化仏を付けている仏像，すなわち十一面観音菩薩であるということが明らかになりました。

泰寧寺は城里町石塚の城主であった石塚氏ゆかりの寺院で，石塚氏は佐竹宗義が1362年に石塚の地を与えられたことにより，石塚を名乗るようになりました。佐竹氏が常陸国を統一すると，石塚氏は1595年に根小屋の片野城を与えられ，この地に移ります。泰寧寺も石塚氏の移転によって片野城近くにひかれた寺です。この仏像は，泰寧寺が石塚の地にある時に作られ，石塚氏とともに現在の地に移ってきたことが推測できます。

佐竹氏は，寺院の造営を数多く行っており，その本尊として院派系仏師による造仏を活発に行っています。解体修理をしていないため，正確な製作年代や作成した仏師の名前を知ることはできませんが，この仏像も佐竹氏との関連性をあらわす重要な資料と考えられます。

修復前

化仏（けぶつ）がなく聖観音菩薩として安置されていました。後の時代に漆と箔が塗られ，髻（もとどり）や右腕，蓮華などが新しく補修されてい

1 後から塗られた箔と漆をはがしました。また，当初の形とは違う形で後の時代に新しく作られた部分は撤去しました。

2 後から補修された髻を取り外したところ，髻の下から化仏を取り付けた跡が見つかりました。この跡により，この仏像が十一面観音だったということが明らかになりました。

修復後

化仏が取り付けられ，十一面観音坐像となりました。全体に古色を施しています。修理後の像高は42.6cm。

3 撤去した右腕や左手の親指・小指，また，なくなっていた化仏や水瓶，金具類を新しく作りました。

文化財調査報告会関連展示・発掘調査速報展

石岡を掘る２　戦国時代特集

平成 28 年 8 月 18 日発行

編　集　　石岡市教育委員会　文化振興課

発　行　　石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680-1

常陸風土記の丘

〒315-0007 茨城県石岡市染谷 1646